

2023年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月11日

上場会社名 株式会社ツカダ・グローバルホールディング 上場取引所 東
 コード番号 2418 URL <https://www.tsukada-global.holdings>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚田正之
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 山崎誠広 (TEL) 03-5464-0081
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第1四半期の連結業績 (2023年1月1日~2023年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	12,250	40.8	△13	—	72	—	37	—
2022年12月期第1四半期	8,699	69.3	△1,845	—	△973	—	△1,283	—

(注) 包括利益 2023年12月期第1四半期 △182百万円(—%) 2022年12月期第1四半期 △924百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2023年12月期第1四半期	円 銭 0.78	円 銭 —
2022年12月期第1四半期	△26.91	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2023年12月期第1四半期	百万円 85,316	百万円 22,665	% 26.3
2022年12月期	87,472	23,086	26.1

(参考) 自己資本 2023年12月期第1四半期 22,445百万円 2022年12月期 22,866百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年12月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 5.00	円 銭 5.00
2023年12月期	—	—	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年12月期の連結業績予想 (2023年1月1日~2023年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	26,490	17.5	786	—	614	△54.1	293	—	6.14
通期	57,990	12.2	4,508	51.5	4,171	△12.3	2,927	95.3	61.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 ー社(社名)ー、除外 ー社(社名)ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年12月期1Q	48,960,000株	2022年12月期	48,960,000株
-------------	-------------	-----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年12月期1Q	1,259,834株	2022年12月期	1,259,834株
-------------	------------	-----------	------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年12月期1Q	47,700,166株	2022年12月期1Q	47,700,166株
-------------	-------------	-------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報)	9
(収益認識関係)	9
3. 補足情報	10
(施行及び受注の状況)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ウィズコロナの下ながら個人消費や民間設備投資が戻るなど、各種政策の効果による景気持ち直しが見られる中、地政学的リスクの高まりによるサプライチェーンの混乱、エネルギーコスト及び原材料価格の高騰など、いまだ先行き不透明な状況で推移しております。

このような環境の中、当社グループはブライダル市場、ホテル市場及びウェルネス&リラクゼーション(W&R)市場における新たな価値の創造、高品質かつ魅力あふれる店舗づくりと付加価値の高いサービスの提供及び新型コロナウイルス感染症には万全の対策で取り組んでまいりました。

ホテル事業においては、段階的な渡航制限の解除から2023年3月には訪日外国人数が181万人(日本政府観光局「訪日外国人数(2023年3月推計値)」)と2019年3月比65.8%まで回復した影響から宿泊稼働率及び宿泊単価が上昇し、安定した状況で推移いたしました。また、婚礼事業及びホテル事業における婚礼施行件数においても、昨年まで頻発しておりました新型コロナウイルス感染症の影響による延期等もほぼなくなり平時に戻りつつあります。しかしながら、婚礼施行単価においては戻りが停滞するなど、引き続き、先行きの見通しが難しい状況にあります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、12,250百万円(前年同四半期比40.8%増)となり、利益面につきましては、営業損失13百万円(前年同四半期は営業損失1,845百万円)、経常利益は72百万円(同 経常損失973百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益37百万円(同 親会社株主に帰属する四半期純損失1,283百万円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① 婚礼事業

当第1四半期連結累計期間においては、ウィズコロナの下、婚礼施行件数は2,157件(前年同四半期比22.4%増)と増加し、婚礼施行単価については回復に停滞感がありますが利益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は7,149百万円(同29.0%増)、セグメント利益は264百万円(前年同四半期はセグメント損失304百万円)となりました。

② ホテル事業

当第1四半期連結累計期間においては、ホテル婚礼施行件数が354件(前年同四半期比23.8%増)と増加し、宿泊稼働率及び宿泊単価についても訪日外国人数の増加から堅調に推移し、急減したインバウンド需要についても緩やかに回復しております。

この結果、当セグメントの売上高は4,382百万円(同77.3%増)、セグメント利益は215百万円(前年同四半期はセグメント損失1,077百万円)となりました。

③ W&R事業

当第1四半期連結累計期間においては、複合温浴施設「美楽温泉SPA-HERBS」が「ニフティ温泉年間ランキング」全国総合第1位に選出され、来館数、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を上回り牽引いたしました。しかしながら、英国式リフレクソロジーサロン「クイーンズウェイ」については、施術スタッフの増員に苦戦したこと、また、不採算店舗の閉鎖等の影響により当セグメントの売上高は微増となり、利益面では回復基調にありますが損失となりました。

この結果、当セグメントの売上高は718百万円(前年同四半期比4.9%増)、セグメント損失は40百万円(前年同四半期はセグメント損失107百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産総額は、前連結会計年度末に比べ2,155百万円減少して、85,316百万円となりました。これは主に、有利子負債の返済及び納税により現金及び預金が2,113百万円減少したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債総額は、前連結会計年度末に比べ1,735百万円減少して、62,650百万円となりました。これは主に、消費税の納税等により流動負債のその他が974百万円及び納税により未払法人税等が671百万円それぞれ減少したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産総額は、前連結会計年度末に比べ420百万円減少して、22,665百万円となりました。これは主に、期末配当により利益剰余金が201百万円及び評価替えにより繰延ヘッジ損益が238百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年2月14日付け決算短信にて公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。今後、業績予想に関して修正の必要が生じた場合は、速やかに開示する予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,238	19,124
売掛金	1,479	1,476
商品	166	177
原材料及び貯蔵品	381	355
その他	1,360	1,286
貸倒引当金	△37	△37
流動資産合計	24,588	22,383
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	29,083	28,628
土地	9,544	9,555
建設仮勘定	1,007	1,487
その他(純額)	1,496	1,521
有形固定資産合計	41,131	41,193
無形固定資産		
のれん	1,157	1,082
その他	1,020	987
無形固定資産合計	2,177	2,070
投資その他の資産		
投資有価証券	5,599	5,798
敷金及び保証金	7,211	7,081
その他	6,703	6,741
貸倒引当金	△121	△122
投資その他の資産合計	19,392	19,498
固定資産合計	62,702	62,762
繰延資産	181	170
資産合計	87,472	85,316

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,101	2,020
1年内返済予定の長期借入金	7,106	5,508
1年内償還予定の社債	964	994
未払法人税等	839	168
前受金	3,107	3,775
店舗閉鎖損失引当金	62	7
資産除去債務	47	38
その他	4,300	3,325
流動負債合計	18,530	15,838
固定負債		
社債	5,703	5,423
長期借入金	33,722	34,837
退職給付に係る負債	407	416
役員退職慰労引当金	953	969
資産除去債務	4,535	4,572
その他	532	592
固定負債合計	45,855	46,811
負債合計	64,386	62,650
純資産の部		
株主資本		
資本金	472	472
資本剰余金	634	634
利益剰余金	22,140	21,939
自己株式	△892	△892
株主資本合計	22,353	22,152
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	171	△66
為替換算調整勘定	347	366
退職給付に係る調整累計額	△5	△6
その他の包括利益累計額合計	513	293
非支配株主持分	219	219
純資産合計	23,086	22,665
負債純資産合計	87,472	85,316

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年3月31日)
売上高	8,699	12,250
売上原価	7,148	8,360
売上総利益	1,551	3,890
販売費及び一般管理費	3,397	3,903
営業損失(△)	△1,845	△13
営業外収益		
受取利息	16	11
匿名組合投資利益	71	70
出資金運用益	-	61
助成金収入	755	17
為替差益	455	68
その他	21	22
営業外収益合計	1,319	251
営業外費用		
支払利息	111	122
出資金運用損	138	-
持分法による投資損失	21	12
その他	176	30
営業外費用合計	447	165
経常利益又は経常損失(△)	△973	72
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	0	51
店舗閉鎖損失	-	16
投資有価証券売却損	32	-
その他	3	-
特別損失合計	36	68
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△1,009	4
法人税等	272	△32
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,282	36
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,283	37

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,282	36
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△23	-
繰延ヘッジ損益	201	△238
為替換算調整勘定	83	10
退職給付に係る調整額	△0	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	96	9
その他の包括利益合計	357	△218
四半期包括利益	△924	△182
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△938	△182
非支配株主に係る四半期包括利益	13	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(簡便な会計処理)

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	婚礼事業	ホテル事業	W&R事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる 収益	5,519	2,472	685	8,676	—	8,676
その他の収益	22	—	—	22	—	22
外部顧客への売上高	5,542	2,472	685	8,699	—	8,699
セグメント間の 内部売上高又は振替高	354	169	6	531	△531	—
計	5,897	2,641	691	9,230	△531	8,699
セグメント損失(△)	△304	△1,077	△107	△1,489	△356	△1,845

(注) 1. セグメント損失の調整額△356百万円には、セグメント間取引消去19百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△375百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	婚礼事業	ホテル事業	W&R事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる 収益	7,145	4,382	718	12,246	—	12,246
その他の収益	4	—	—	4	—	4
外部顧客への売上高	7,149	4,382	718	12,250	—	12,250
セグメント間の 内部売上高又は振替高	426	244	8	678	△678	—
計	7,575	4,627	726	12,929	△678	12,250
セグメント利益又は セグメント損失(△)	264	215	△40	439	△452	△13

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△452百万円には、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△458百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報)」に記載のとおりであります。

3. 補足情報

(施行及び受注の状況)

(1) 婚礼施行実績

期別	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
セグメントの名称	施行件数 (件)	施行件数 (件)	施行件数 (件)
婚礼事業	1,762	2,157	10,837
ホテル事業	286	354	1,660
合計	2,048	2,511	12,497

(2) 婚礼受注状況

期別	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)		前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	
	受注件数 (件)	受注件数残高 (件)	受注件数 (件)	受注件数残高 (件)	受注件数 (件)	受注件数残高 (件)
婚礼事業	2,751	7,996	3,082	6,905	9,810	5,980
ホテル事業	446	1,381	538	1,304	1,559	1,120
合計	3,197	9,377	3,620	8,209	11,369	7,100